

# 火事から身を守る

## 衣服への着火に気をつける

着ていた服に火が燃えうつってしまい、やけどをしたり、死亡したりする事故がおきています。

### おもな原因

#### コンロ

- 調理中、ガスコンロの奥にある鍋を取ろうとして、火が袖に燃えうつった。



#### 仏だん

- お供えする時に、ろうそくの火が袖に燃えうつった。



#### ストーブ

- 厚着していたので、服にストーブの火がついたことに気づくのが遅れた。

### 注意!!

綿やレーヨン而起毛させた製品は特に注意が必要です。衣服の表面を炎が走り、あっという間に服全体に燃え広がります。

### もし衣服に火がついたら



# 日ごろの備え

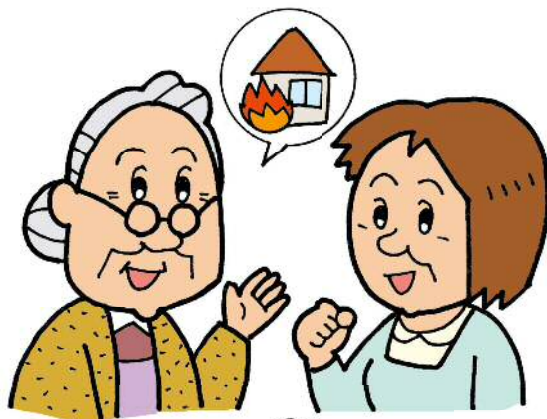
火事は、いつ、どこでおきるかわかりません。万が一のために、日ごろから備えておきましょう。

- 住宅用火災警報器などの防災機器を備える。(次ページ参照)
- 寝室は避難しやすい1階、出入口などの近くにする。
- 避難する方向を2つ決めておく。



- 逃げ道となる通路や出入口には、荷物などを置かない。

- 日ごろから近所の方々に協力を求めておく。

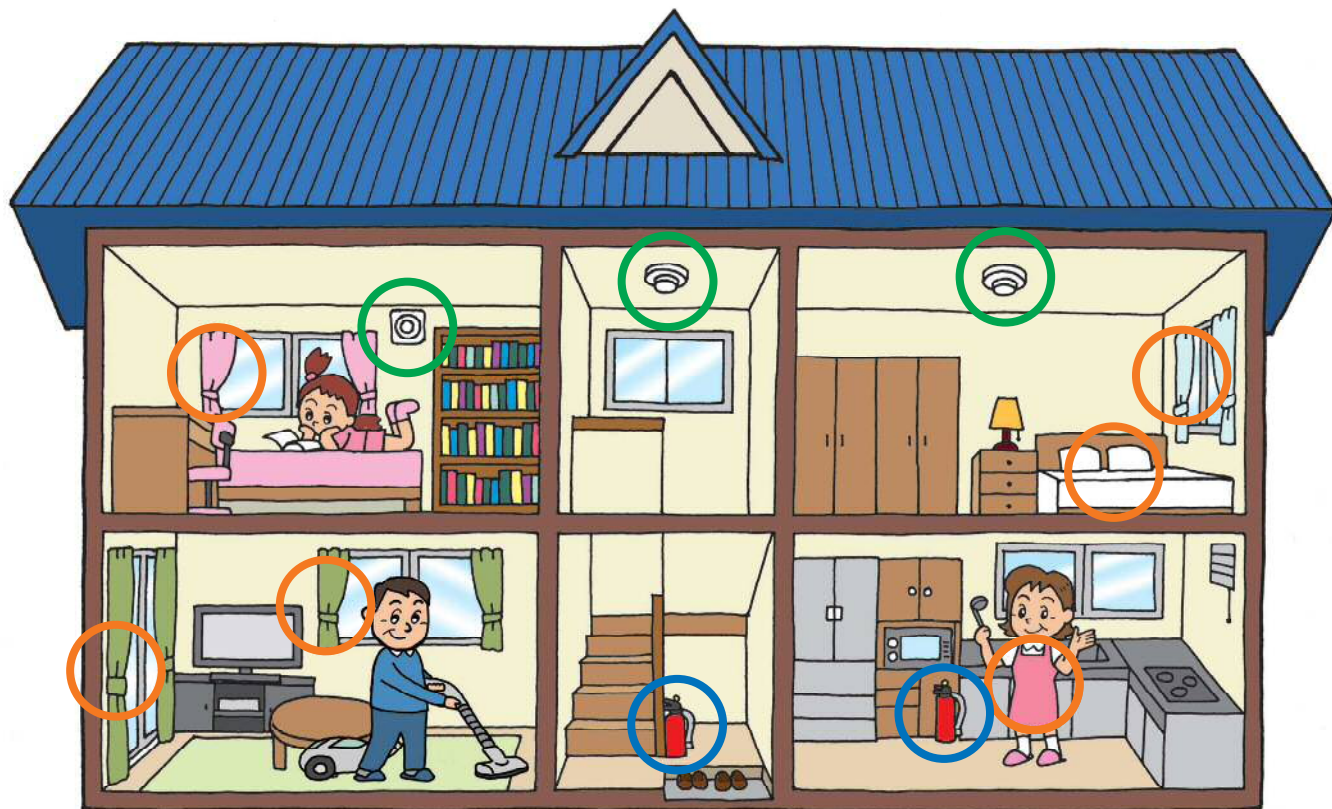


- 逃げ道となるところは段差をなくし、手すりなどをつける。



# 火事から身を守る

## 防災機器を備える



1

火事を早く見つける

### 住宅用火災 警報器

煙などを感知して  
火事をいち早くしら  
せてくれます。  
寝ているときでも安  
心です。  
(10 ページ参照)

2

火事を大きくしない

### 防災品



火がついても燃え  
にくい加工がされた  
製品です。  
寝具やエプロン、  
カーテンなどがあり  
ます。

3

火事を早く消す

### 消火器

住宅用の消火器は、  
軽量で操作も簡単。  
スプレータイプの消  
火器などもあります。  
(12 ページ参照)



# 火事になったら

住宅火災による死者の3人に1人は80歳以上の方です!!

## ① 逃げる(避難が最優先!!)

- 服装や持ち物にこだわらず、一刻も早く安全な場所へ逃げる。
- 一度避難したら絶対に戻らない。

ぬれタオルなどで煙を吸わないようにする!

できるだけ姿勢を低くして!!



火事になったら  
防災機器を備える

注意!!

- 高齢者・障害がある人は避難に時間がかかるため、まずは避難して下さい。
- 煙を吸うと、意識がなくなり、短時間で死に至ります。
- 小さな火だと思って、無理をして消さないで下さい。

## ② 火事を知らせる(助けを求める)

- 安全な場所に避難したら、大きな声を出したり、鍋をたたいたりして、家族や近所に火事を知らせ、助けを求める。
- 安全なところから119番通報する。

